

仏教という共通文化のイベントとともに、 若者の交流を軸としたさらなる結びつきを宣言。

第5回となる日中韓文化交流フォーラムは中国揚
州で開催された。仏教フォーラムも兼ねた今回は、
仏教という共通の宗教で結ばれた過去を再確認し、
未来へとつなごうという意気込みをもってイベント
やシンポジウムが行われた。回を重ねるにつれて、そ
の濃度は高まっている。

祈る式典が催された。日本からは、鑑真が建立した奈良
の唐招提寺や法隆寺、薬師寺の僧侶らが参加している。

これは日中韓の友好協会が主催した日中韓文化交流
フォーラムの一環である。

さらに、3カ国の書家、漆芸家、工芸家などがその場
で作品づくりを披露し、できあがった作品は大明寺に奉
納され永久保存されることになった。



大明寺に日中韓の僧侶たち1,000人が集まり、東アジアの平和を祈った

鑑真和上ゆかりの地に、 3カ国の僧侶1,000人が集う。

西暦753年、中国揚州の大明寺住職であった鑑真和
上は度重なる苦難を乗り越え、ついに日本の土を踏む。
日本への仏教布教を決心してから10年の月日が流れて
いた。すぐさま東大寺に戒壇を設け、日本仏教の整備に
取り掛かる。そして律宗の開祖となるだけではなく、来
日の際に多くの芸術家や職人を同行させ唐の文化を日
本に伝えたのである。

2009年10月15日、その鑑真和上ゆかりの大明寺に
日中韓の僧侶たち1,000人が集まり、東アジアの平和を

日本側の主催者である公益財団法人 文化財保護・
芸術研究助成財団 事務局長の渡邊幸夫さんは次のよ
うに語る。

「日中韓三国は古来よりシルクロードで結ばれ、共に
仏教に下支えされながら文化交流を果たしてきました。
今回の催し物はそれを象徴し、長く続いてきた関係を再
確認するために行われたのです」

非常に近い文化を持ちながら、歴史的背景や社会制
度も関係し3カ国にはまだ対立的な面も少なくない。

世界は経済不況のまっただ中にあるが、ヨーロッパが
EUを中心にまとまりつつある現在、東アジアにゆるやか



3カ国の書家、漆芸家、工芸家などがその場で作品づくりを披露

ながらも独自の深い結びつきを築き、文化共同体的なも
のから経済共同体的なものへの道筋を作ろうというね
らいもそこにある。

東アジアの平和と友好のカギは 若者たちが握っている。

催し物のあと、「未来志向の日中韓文化交流」をテー
マとした会議が行われ、日本の松尾修吾、中国の劉徳有、
韓国の鄭求宗 各代表委員が会議で発言した。

「さまざまな意見が交わされましたが、中心となるのは
若者の交流であるということで一致しています」(渡邊
さん)

これまでも同財団では多くの取り組みを行ってきた。
この1年だけでも、文化・芸術では、対中国向けに漫画・
アニメ・音楽・人形展・映画上映のほか、市民・青少年の
交流などへの助成を行った。対韓国に対しても、世界文
化遺産紹介展、日本人形展、津軽三味線公演、ジャパン
ウィーク浮世絵展などを支援している。日本語教育や日
本研究・知的交流の分野でも同様である。今後は特に文
化・芸術面では若者の交流に力を入れたいと日本側が
提案した。このフォーラムの直前に、日中韓首脳会議が
開催されたこともあり、会議は関係強化に向けて積極的
なムードで進んでいった。

最後に議長劉徳有委員長が以下のように締めく
くった。

- (1) 3カ国の文化交流を通じて、平和を構築する。
- (2) アジアの世界への影響力が拡大しており、3カ国の
文化交流を通じて、世界のアジアに対する理解を一
層促進する。

担当者より



平山先生のご遺志を
継いで努力いたします。

公益財団法人
文化財保護・芸術研究助成財団
事務局長
渡邊幸夫さん

日中韓の文化交流による平和と友好は平山郁夫先
生の永年の願いでした。今回のフォーラムでも、各
国の代表者に先生のご病状について聞かれました。
その後、残念な結果となりましたが、私たちはそのご
遺志を継ぎ、先生が切り開かれた道を歩んでいき
たいと考えております。AJOSCには今後も変わらぬ
ご支援、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



「未来志向の日中韓文化交流」をテーマとした会議の様子

(3) 東アジア共同体の実現は、秩序よく、時間をかけて
取り組む必要があり、文化共同体からスタートする
のは良いアイデアである。

(4) 未来を担う青少年の交流を3カ国は特命とし、これ
をさらに強化したい。

席上、病床にあった平山郁夫氏のメッセージも代読さ
れた。

「その後、平山先生が亡くなりましたが、生前に先生
が『他の宗教が排他的な面が多いのに対して、仏教はた
いへん穏やかで協調のできる宗教ですから、世界の協調
に日本人が果たすべき役割は大きい』とおっしゃって
いたことを思い出します」と渡邊さんは語ってくれた。

第6回目となる2010年は日本で開催される。公開シ
ンポジウムと併せて、若手現代美術作家による共同制
作プロジェクトを実施する予定である。